

平成 1 9 年度における森林計画の樹立等について

1 平成 1 9 年度森林計画の樹立及び変更

生物多様性に資するプロジェクトの取組に伴う事業や調査等を森林計画に反映するとともに、渡島半島一帯はブナ、ヒバの北限域で生物多様性保全の観点から慎重に扱う必要があり、渡島半島一帯の天然林の伐採は当面計画しない取扱いとし、関係する森林計画の樹立及び変更を行った（別添 1）。

2 施業指標林、水土保持モデル林の活用状況

公益的重視の森林施業を実際のフィールドで国民に分かりやすく P R するため森林管理署等に設置されている施業指標林や水土保持モデル林の活用状況等を確認した（別添 2、別添 3）。

署等で企画する森林教室や現地見学会等での活用を図り、国有林で行っている森林施業について国民の理解浸透に努める考え。

3 森林生態系会議の開催

平成 1 9 年度から、森林管理署等の担当課長を対象として野生生物に関する会議を北海道環境科学研究センター、森林総合研究所北海道支所からの外部講師を招聘して実施した。

平成19年度

地域管理経営計画等の策定及び変更(案)の概要

地域管理経営計画等の策定：石狩空知、上川北部及び後志胆振森林計画区

国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画等の変更：日高、留萌、十勝及び渡島檜山森林計画区

1	計画策定等の基本的な事項	1
2	策定森林計画区の概要	2
3	計画策定の基本的な考え方	3
4	策定計画(案)の具体的な取組のポイント	3～6
5	変更計画(案)の概要	7～8

公告縦覧期間：平成20年2月4日(月)～3月5日(水)

【計画(案)に関するお問い合わせ先】

北海道森林管理局 計画部 計画課

住 所 〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

電 話：011-622-5241

FAX：011-614-2652



国民の森林・国有林

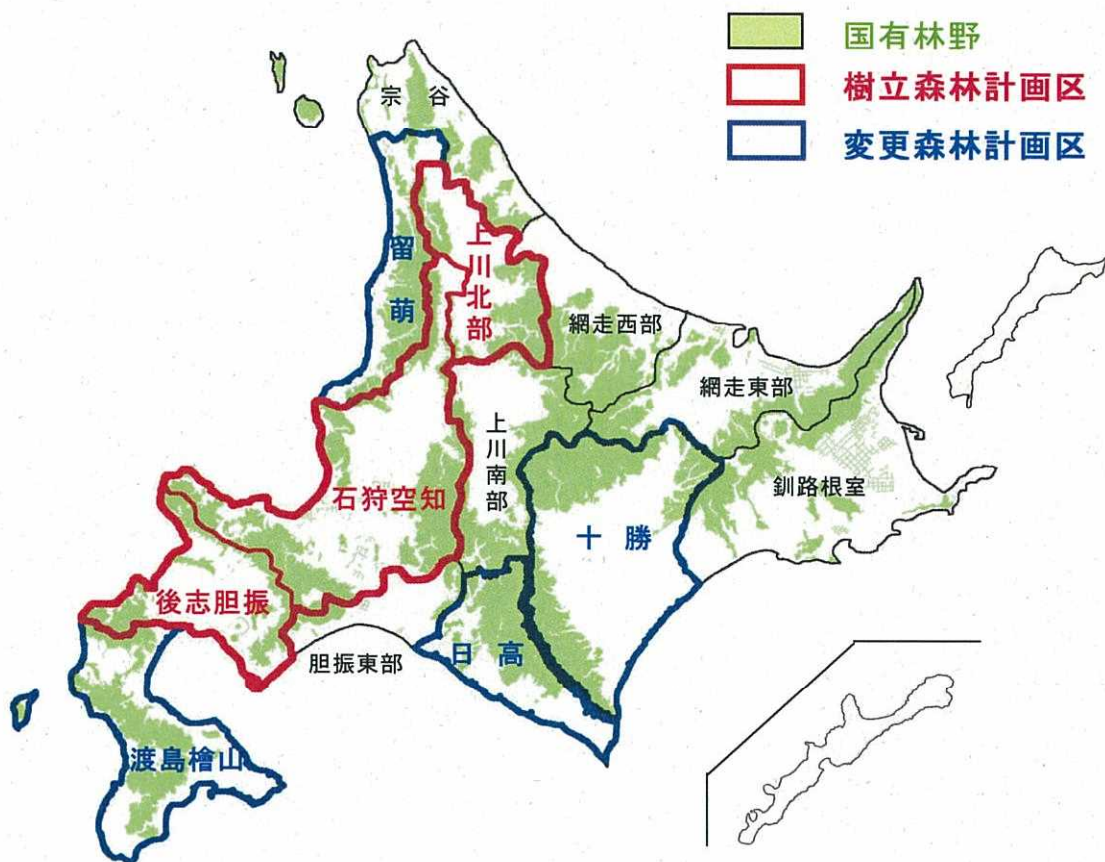
注意：本資料は、計画(案)本体ではなく、参考として概要を取りまとめたものです。

1 計画策定等の基本的な事項

北海道森林管理局では、北海道を流域別に区分した13の森林計画区（以下「計画区」といいます。）について、10年計画の「国有林の地域別の森林計画」、5年計画の「地域管理経営計画」及び「国有林野施業実施計画」を立てています。（※国有林の森林計画制度の体系は、12ページを参照してください。）

平成19年度は、**石狩空知**、**上川北部^{しりべしいぶり}**及び**後志胆振**の3つの計画区について、地域管理経営計画と国有林野施業実施計画を立てます。（※この3つの計画区の国有林の地域別の森林計画については、平成19年12月28日に樹立済みです。）

また、**日高及び十勝**計画区については、国有林の地域別の森林計画と地域管理経営計画、**留萌及び渡島檜山**計画区については、国有林の地域別の森林計画、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の一部を変更します。



○「国有林の地域別の森林計画」とは？

国有林の森林の整備及び保全の方向や伐採、造林、林道及び保安林の整備の目標などを定めるものです。

○「地域管理経営計画」とは？

国有林野の取扱いの基本的な考え方など、国有林野の管理経営の方向を定めるものです。

○「国有林野施業実施計画」とは？

伐採や造林の方法、保護林やレクリエーションの森の設定などの具体的な森林の取扱いを、箇所別（林小班^(注)単位）に定めるものです。

（注）「林小班」とは、森林を取扱う最小単位で、樹種や樹齢などで区分しています。

2 策定計画区の概要

(1) 石狩空知計画区

本計画区の国有林野は、流域総土地面積の39%、流域森林面積の60%を占める44万6千haとなっています。

森林の8割は、トドマツ・エゾマツ・ミズナラ・イタヤカエデなどが混交する天然林で、2割は昭和30年代以降に造成されたトドマツ・カラマツなどの人工林となっています。

これらの森林については、札幌市をはじめとした都市圏の水源地として水源かん養機能の発揮が、また、支笏洞爺国立公園など多くの自然公園に指定され、優れた自然景観を有している森林が多いことから、保健休養機能の発揮が特に期待されています。

なお、本計画区の国有林野は、石狩支庁の全域及び後志支庁管内北部の区域については、札幌市に所在する「石狩森林管理署」、空知支庁管内の芦別市を境に南側の区域については、岩見沢市に所在する「空知森林管理署」、北側の区域については、幌加内町に所在する「空知森林管理署北空知支署」が管理経営しています。



【豊平峡ダム周辺の森林（札幌市）】

(2) 上川北部計画区

本計画区の国有林野は、流域総土地面積の39%、流域森林面積の50%を占める16万4千haとなっています。

森林の7割は、ミズナラ・シナノキ・カンバ類を主体にトドマツ・エゾマツなどが混交する天然林で、3割は昭和30年代以降に造成されたトドマツ・カラマツなどの人工林となっています。しかし、厳しい気象条件の影響などから、笹生地や疎林化した森林も分布しています。

これらの森林については、地域の水源地として水源かん養機能の発揮が特に期待されています。

なお、本計画区の国有林野は、下川町に所在する「上川北部森林管理署」が管理経営しています。



【ワッカウエンナイ沢上流の森林（和寒町）】

(3) 後志胆振計画区

本計画区の国有林野は、流域総土地面積の30%、流域森林面積の40%を占める13万haとなっています。

森林の8割は、ブナ・イタヤカエデ・カンバ類などの広葉樹天然林が主体で、2割は昭和30年代以降に造成されたトドマツ・カラマツなどの人工林となっています。

これらの森林については、地域の水源地として、また、活火山である有珠山を有していることなどから、水源かん養機能や山地災害防止機能の発揮が期待されるとともに、貴重な自然環境を有している森林も多いことから、保健休養機能の発揮も期待されています。

なお、本計画区の国有林野は、倶知安町に所在する「後志森林管理署」が管理経営しています。



【ニセコ神仙沼自然休養林（共和町）】

3 計画策定の基本的な考え方

上位計画の「森林・林業基本計画」や「国有林野の管理経営に関する基本計画」等の基本方針を受けて、本計画では、

- ① 公益的機能の維持増進
- ② 美しい森林づくりの推進及び地球温暖化防止への貢献
- ③ 生物多様性保全の推進
- ④ 国民参加の森林づくりの推進

を旨とした管理経営を基本に、開かれた「国民の森林」の実現に向けた取組を推進していきます。

4 策定計画（案）の具体的な取組のポイント

（1）公益的機能の維持増進（3計画区共通）

国民の皆さんの期待や要請に適切に対応するため、それぞれの国有林野を重点的に発揮させるべき機能によって、次のとおり区分して管理経営を行います。

国有林野の機能類型区分

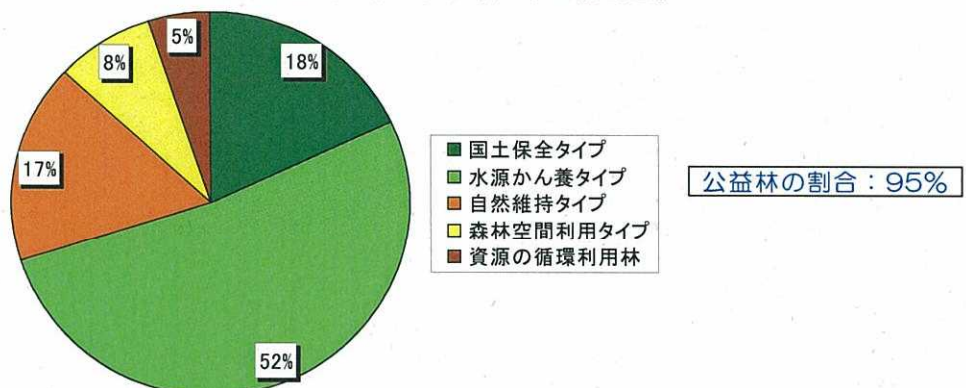
- 水土保全林
 - 国土保全タイプ：山地災害の防止など国土保全を重視
 - 水源かん養タイプ：渇水緩和や水質保全など水源のかん養を重視
- 森林と人との共生林
 - 自然維持タイプ：貴重な自然環境の保全を重視
 - 森林空間利用タイプ：自然とのふれあいの場を提供することを重視
- 資源の循環利用林：木材等の生産を重視

石狩空知、上川北部及び後志胆振計画区については、ほぼ全部を「水土保全林」及び「森林と人との共生林」（いわゆる「**公益林**」）に区分し、公益的機能の維持増進のための森林施業や治山事業等を進めます。

単位：千ha

機 能 類 型			新 計 画（案）					
			石狩空知		上川北部		後志胆振	
			面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比
公益林	水土保全林	国 土 保 全タイプ	50	11%	42	26%	15	12%
		水 源かん養タイプ	249	56%	98	60%	51	39%
	森林と人との共生林	自 然 維 持タイプ	56	13%	18	11%	46	35%
		森林空間利用タイプ	89	20%	5	3%	15	12%
	資源の循環利用林		2	0%	1	0%	3	2%
計			446	100%	164	100%	130	100%
(公益林の割合)			100%		100%		98%	

【参考：北海道森林管理局全体の機能類型別面積割合】



(2) 美しい森林づくりの推進及び地球温暖化防止への貢献

○間伐の計画的な推進（3計画区共通）

健全な森林の育成による温室効果ガスの吸収目標への貢献及び多様な森林への誘導に必要な間伐を計画的に実施していきます。

人工林の間伐指定量

	現行計画 (A) <面積>		新計画 (案) (B) <面積>	(B) / (A)
・ 石狩空知	4 7 5 千 m^3 < 1 5 千ha>	→	6 7 4 千 m^3 < 2 0 千ha>	1 4 2 %
・ 上川北部	1 5 4 千 m^3 < 4 千ha>	→	1 3 8 千 m^3 < 4 千ha>	9 0 %
・ 後志胆振	7 8 千 m^3 < 2 千ha>	→	9 8 千 m^3 < 2 千ha>	1 2 6 %



【間伐が必要な森林】



【間伐の実施により適度に陽光が入り下層植生が増加】

(3) 生物多様性保全の推進

ア 天然林の保全管理

天然林については、生物多様性の保全などに対するニーズにも的確に応える観点から、以前にも増してその保全管理が重要となってきています。

このため、平成18年度に続き、19年度の策定計画の検討に当たっても、有識者による天然林施業に関する現地検討会を実施したところです。

天然林の取扱いについては、有識者の意見を踏まえ、今回の計画では、①主として天然力を活用（自然に散布された種子が発芽して生育することを主体）した「天然生林」については、重点的に発揮させるべき機能発揮の観点から必要なもののみ伐採を行うこととし、②これまで人為的に植込みなどを実施してきた「育成複層林（育成天然林）」については、当該森林の発揮させるべき機能に応じ、残す木（育てる木）を考慮した上で伐採を行うこととしています。



【天然林施業に関する現地検討会】

開催場所：石狩署2116林班（札幌市定山溪）

天然林の伐採指定量

単位：百 m^3

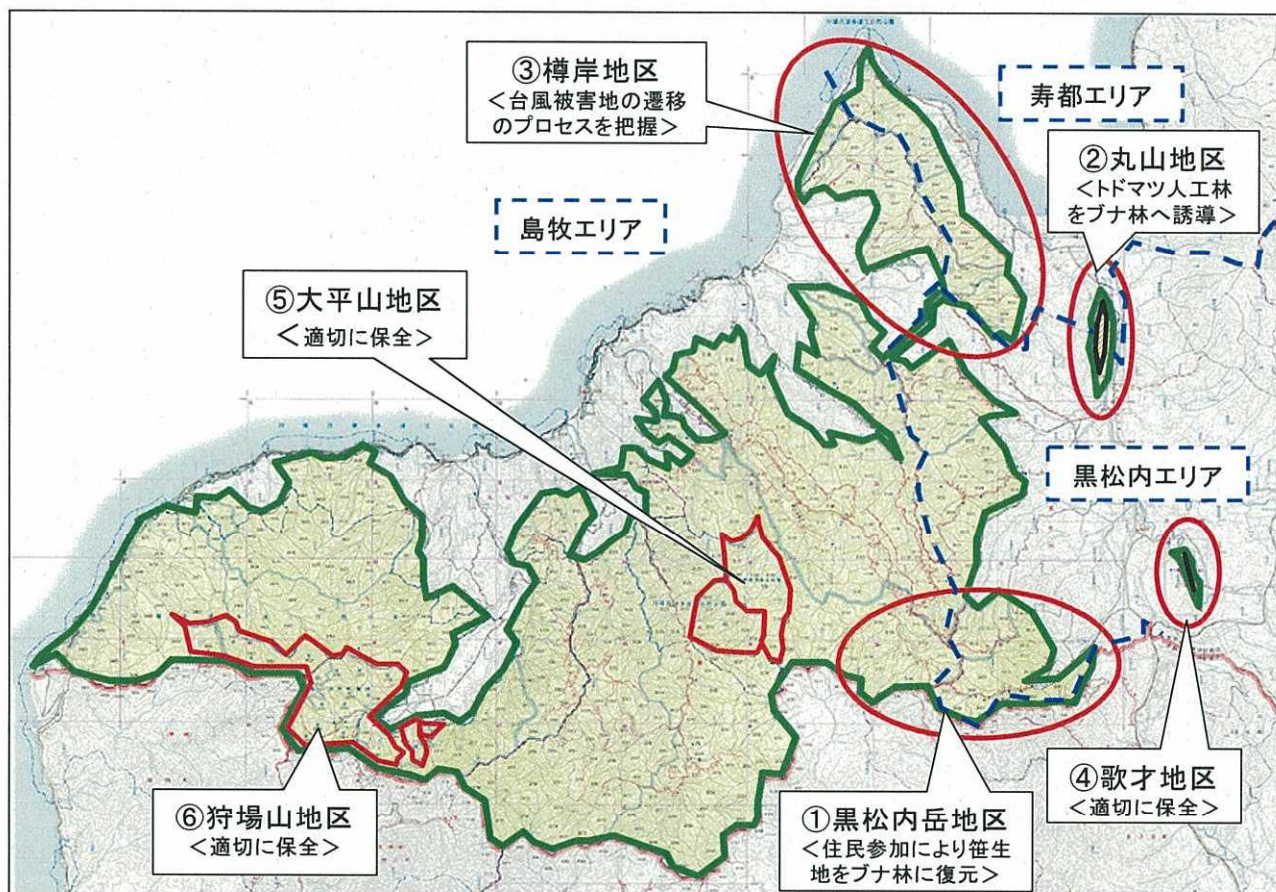
区分	現行計画(A)	新計画(案)(B)	(B) / (A)
石狩空知	710	69	10%
上川北部	314	8	3%
後志胆振	10	0	—

イ 生物多様性の保全に資する「北限のブナ復元」の取組の推進（後志胆振計画区）

後志胆振森林計画区については、自生するブナの北限地帯であることから、ブナ等の天然林（育成複層林及び天然生林）の伐採は計画しないものとします。

また、良好なブナ林の保全を図っていくとともに、かつてはブナが優勢であった森林で、笹生地や疎林化等した箇所において、地域住民、NPO等の参加を得た「北限のブナ復元」の取組を進めます。

具体的には、下図のとおり「島牧エリア（3万3千ha）」、「寿都エリア（2千ha）」及び「黒松内エリア（4千ha）」に区分した上で、当面6つの地区で事業や調査等を展開していきます。



取組の概要

試行的に住民参加によるブナの種子採取や苗木の育成などの活動を実施しつつ、

- 笹生地マップ等の作成により、復元箇所を把握
- また、過去の植生図からブナの分布可能域を推定



この結果を基に、復元箇所と目標林型を明確にした上で事業の実施と方法を検討

- 例えば、
 - ・ ブナの稚幼樹の発生を促すための地表処理や植込み（遺伝子に留意）
 - ・ ブナ林に誘導するための人工林の間伐及び林床の整理
 - ・ ブナの種子豊凶調査やネズミの密度調査
 - ・ 稚幼樹の発生状況や天然更新等のモニタリング など
- また、空中写真、衛星写真、標高、気象データ等の基礎情報を収集し、ブナ及び生物多様性に関する基礎情報を整備

事業実施後は、
評価を行うととも
に、フィード
バックを検討

ウ 自然再生の取組（石狩空知計画区）

平成16年の台風18号により被害を受けた「昭和の森野幌自然休養林」においては、「100年前の原始性が感じられる森林づくり」をテーマに、石狩地域森林環境保全ふれあいセンターがボランティア団体、企業、学校等と連携・協力し、森林再生や生態系保護、生物多様性の保全に係る取組を展開していきます。



（４）国民参加の森林づくりの推進（３計画区共通）

平成16年の台風18号による支笏湖周辺の風倒被害地の復旧に当たっては、道民はもとより、企業、NPO等にも参加を呼びかけ、国民参加による森林再生を進めます。

また、ボランティア団体等の森林づくり活動のための「ふれあいの森」等や、学校等の森林体験学習のための「遊々の森」を設定するとともに、幅広く市民の方が参加できる森林環境教育を推進します。

○ ふれあいの森

名 称	面積 (ha)	位置 (署名・林小班)
千歳水源の森 (※継続)	1.13	石狩・5284い、は
北ガスサービス創立30周年記念の森 (※継続)	0.08	石狩・2121に2
林退協の森 (※継続)	12.80	石狩・2121に2
由仁内ふれあいの森 (※継続)	0.65	上川北部・80ふ
登別温泉ふれあいの森 (※継続)	14.83	後志・2397ほ他
公募候補地	16.23	石狩・42その他
公募候補地	12.67	石狩・40け他
公募候補地	55.58	石狩・2210ろ～ち
公募候補地	15.83	石狩・5188と他
公募候補地	14.91	石狩・5285に他
公募候補地	42.62	石狩・5374い～ち

○ 遊々の森

名 称	面積 (ha)	位置 (署名・林小班)
元気の森 (※継続)	7.24	石狩・40る34他
遊々の森 (※継続)	2.74	空知・76と他
どんぐりの森 (※継続)	26.63	北空知・47い、に
みんなの森 (※継続)	8.81	北空知・234い、る
わんぱくの森 (※継続)	4.69	北空知・326ほ他
南小の森 (※継続)	1.05	上川北部・1092へ、ち
ふおれすと鉱山ふれあいの森 (※継続)	22.39	後志・2273へ3他
有珠山復興の森 (※継続)	30.84	後志・2406イ他
候補地	0.87	石狩・75ろ1



【わんぱくの森（幌加内町朱鞠内小学校）での活動風景】

5 変更計画（案）の概要

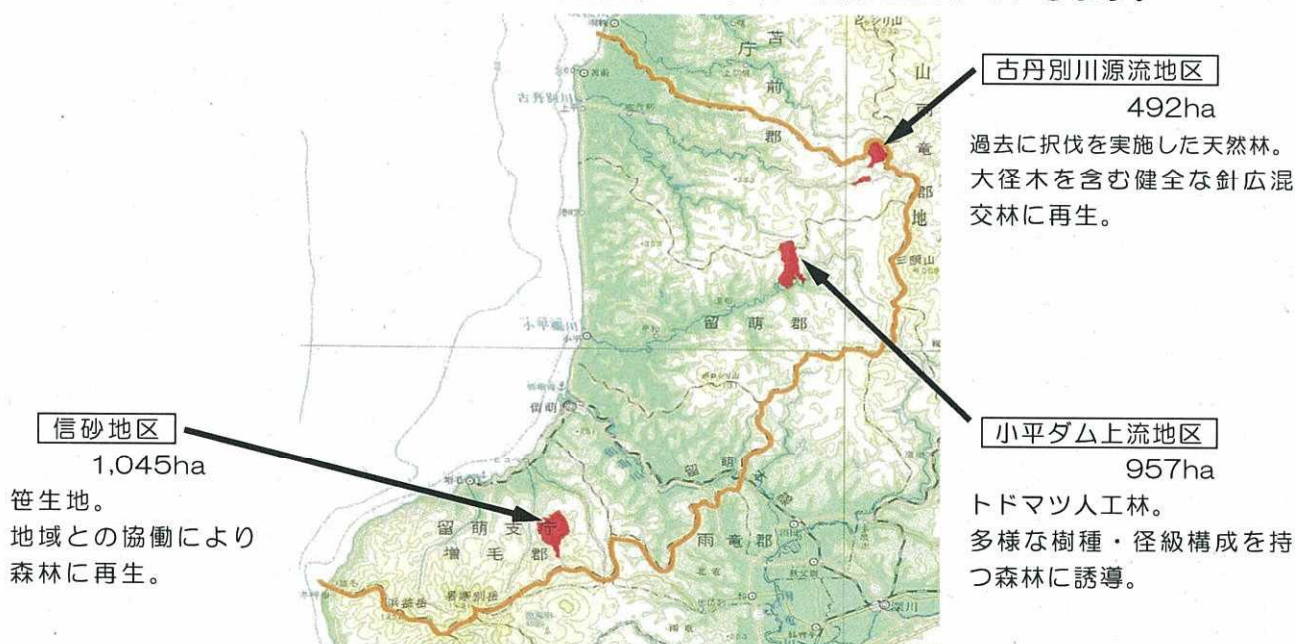
生物多様性の保全に向けた森林の整備及び保全並びに管理経営を進めていくために、計画を変更するものです。

（１）留萌計画区（生物多様性の保全に資する「にしんの森再生」の取組の推進）

本計画区の森林の状態は、厳しい気象条件の影響などから、樹木の生育が制限される一方で、チシマザサが侵入し笹生地や疎林化した森林が分布しています。

このため、海域にも影響を及ぼす森林を、にしんの大群が押し寄せていた頃の多様な森林に再生させることを目指して、地域住民、漁業協同組合及びNPO等の参加を得た「にしんの森再生」の取組を進めます。

具体的には、下図の留萌南部森林管理署管内（9万3千ha）を対象に、当面3つの地区で事業や調査等を展開し、森林再生の手法の検討を進めていきます。



（２）日高及び十勝計画区（生物多様性の保全に資する取組の検討）

「日高町の沙流川源流部を中心とする森林」は、エゾマツ、トドマツを主体とした針葉樹林となっており、樹海として優れた生態系や景観を呈しています。

また、「新得町の十勝川源流部を中心とする森林」は、東大雪山系の山々に囲まれた亜高山帯性針広混交林が広がっています。

これらの天然林については、今後とも豊かな生態系として維持・保存していく必要があることから、森林生態系保護地域の設定の必要性などを検討するためのデータの収集、調査を進めていきます。



【沙流川源流部の森林】



【十勝川源流部の森林】

(3) 渡島檜山計画区（生物多様性の確保の推進）

後志胆振計画区とともに、本計画区についても、渡島半島一帯はブナ、ヒバの北限地帯であり、また、奥尻島にもブナ等天然林が存在することから、ブナ等天然林（育成複層林及び天然生林）については、自然の推移に委ねるものとし、伐採は計画しないこととします。

伐採量（地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画）

（単位：m³）

区 分	現行計画(A)	新計画(案)(B)	(B)－(A)
主 伐	<u>182,805</u>	<u>181,055</u>	△1,750
間 伐	<u>348,206</u>	<u>343,684</u>	△4,522
臨時伐採	38,200	38,200	±0
計	<u>569,211</u>	<u>562,939</u>	△6,272

ブナ等天然林の伐採量を減少

国有林の森林計画制度の体系

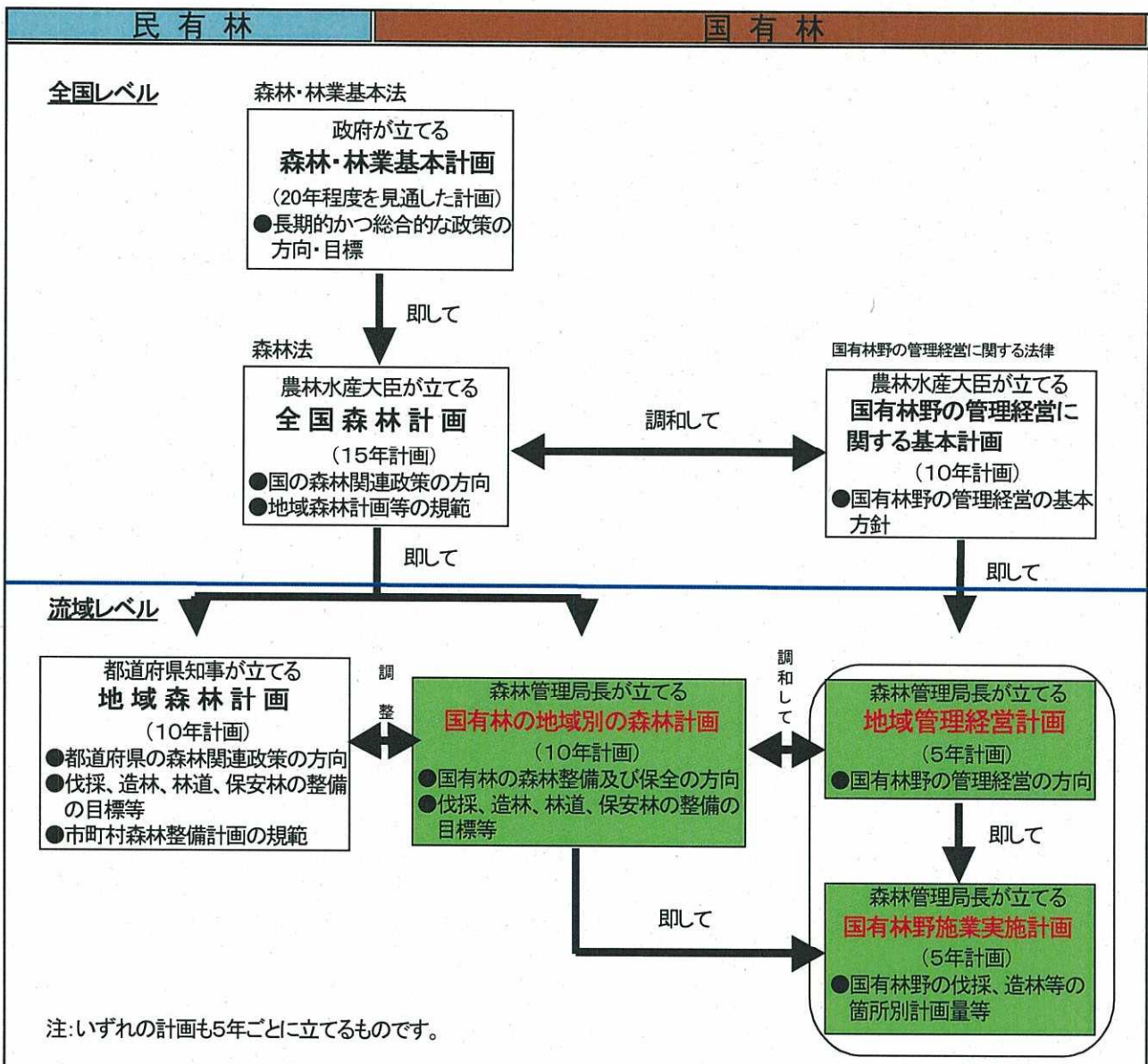
○「森林計画制度」とは？

森林は、水源のかん養、洪水・土砂崩壊などの災害防止、気象緩和・風害防止など生活環境の保全、森林浴など保健休養の場の提供、林産物の供給など様々な面で国民の生活と深く関わっています。また、大気中の二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止することや野生生物の生息・生育環境の確保の上で大きな役割を果たしています。

しかし、森林が成長するためには長い年月を必要とします。そのため、一度荒れてしまうと、その回復を図ることは容易ではありません。

このことから、計画的・長期的な視点に立ち、森林を適切に取り扱っていくために「森林計画制度」が設けられています。

国有林の森林計画制度の体系は、次のとおりとなっています。



施業指標林の活用状況について

別添 2

署	施 業 指 標 林 名 称	林 小 班	面 積	設 定 目 的	現 況 ア ク セ ス	看板	活 用 状 況	今 後 の 取 り 扱 い の 方 向
石狩	空沼天然林施業指標林	1121, 1122, 1125 ~ 1133	624.34	天然林施業の推進	一部通行不可	有り	局研修等で使用	森林総研の試験地等もあり存置
石狩	ミズナラ人工下種施業指標林	1136と	5	特定広葉樹の施業の確立	可	腐朽	無し	広葉樹植栽の成林モデルとして存置
石狩	カラマツ列状間伐施業指標林	1084に1に2	7.36	間伐の推進	通行不可	不明	無し	不要 (廃止の方向で検討)
石狩	高密路網施業指標林	2096 ~ 2213	6922.99	高品質材の生産	60%程度可	有り	署としてデータの収集を行っている。各種研修等PRの場として活用している。	設定目的を高密路網を活用したきめ細かな森林整備に変更
空知	13哩ミズナラ育成施業指標林	2354に1, 2355と	21.51	天然林施業の推進	可	不明	活用していない	活用予定無し (廃止の方向で検討)
空知	13哩広葉樹施業指標林	2354を	1.43	天然林施業の推進	可	不明	活用していない	活用予定無し (廃止の方向で検討)
空知	大夕張択伐施業指標林	1396に1, 1396に2	5.65	天然林施業の推進	可	有り	データ収集	存置
空知	夕張択伐施業指標林	2317に1は2318を	10.87	天然林施業の推進	可	有り	データ収集	存置
空知	夕張広葉樹施業指標林	2512-2514	58.18	天然林施業の推進	可	有り	データ収集	存置
北空知	湯内森林の郷	534に1, た	10.61	経費節減による優良広葉樹の大径材を育成するため	可	不明	無し	活用していく方向で現地精査が必要
日高北部	亜寒帯針葉樹施業指標林	110はつ	192.74	老齢加齢木の多い林分成長量が衰退傾向にある森林に対する適正な取扱いを究明し、併せて森林林業の普及・定着を図る。	可	有り	北海道大学の研究者が天然更新の研究等に利用している「樹海更生プロジェクト」でプロットを設定している。	林相推移の把握が必要
日高北部	ウダイカンバ人工林間伐施業指標林	1101は	2.4	間伐時期に達している広葉樹間伐」林分の健全化収穫量の増大を図る施業を実施する。	可	有り	指導普及課でプロットを設定しデータ集積を行っている。	引き続き局での活用を希望
日高南部	浦河択伐施業指標林	3166に	4.74	天然林に択伐を施した後の生長状態を長期的・定期的に調査し、択伐施業法について、その施業法を技術的に解明する。	歩道未整備	有り	無し	良好な林分を保っていることから現況の保存を図る。
日高南部	新冠択伐施業指標林	1143へ	3.56	天然林に択伐を施した後の生長状態を長期的・定期的に調査し、択伐施業法について、その施業法を技術的に解明する。	可	有り	無し	良好な林分を保っていることから現況の保存を図る。
日高南部	バットの森 (アオダモ) 施業指標林	3149, にほへりる	5.5	年々減少するアオダモ資源の持続的供給を図り貯め、アオダモの適切な施業方法や育成技術の定着化を図る。	可	有り	研究発表や森林総研のサンプル採取等に利用	施業指標林として維持

署	施 業 指 標 林 名 称	林 小 班	面 積	設 定 目 的	現 況 ア ク セ ス	看板	活 用 状 況	今 後 の 取 り 扱 い の 方 向
日高南部	浦河海岸防災林除伐施業指標林	3219お	1.66	えりも岬海岸防災林造成において混交林に導くための技術体系化を図る。	可	有り	ボランティアによる森林整備フィールド等に活用	えりも岬国有林全体を海岸防災林造成の展示林とする。
留萌北部	ふるさとの森林施業指標林	2014い	16.25	林分構造別に林分を生かした森林造成の確立に資する。	可	有り	無し	検討会のフィールド等として存置
留萌南部								
上川北部	森林施業観察施業指標林	1113またら	4.4	健全な森林を維持・造成しつつ地域の人の研修の場として提供	可	有り	無し	引き続き林相推移の把握が必要
上川北部	山火事再生林施業指標林	218いほ	7.8	山火事跡地の再生林を良質材生産林分に誘導	可	無し	無し	引き続き林相推移の把握が必要
上川北部	沢沿い湿地地帯改良施業指標林	2336そつね	4.84	沢沿いの湿地帯に造成し林分改良を行う	可	有り	現地検討会等に活用	視察等で活用しており存置が必要
上川北部	高寒風衝地における天然更新補助作業施業指標林	2198ろ	3	笹生地をかきおこし天然更新による森林造成	可	有り	技術開発課題実施中	引き続き存置が必要
上川北部								
宗谷	北限海岸地帯緑化施業指標林	75いね	2.52	未立木地を早期に解消して失われた森林機能を復元させるため緑化技術の向上を図る。	可	有り	樹種別樹高直径等平成元年に調査	今後も調査を継続
宗谷	トラクタによる造林施業指標林	1086つ	8.69	大型機械による造林の作業体系の確立	可	有り	平成4年に調査	地拵え別の成長量比較調査など積極的に活用
宗谷	天然林施業指標林	2047いほ	5.32	天然林の施業にあたり天然力を活用して成長量増大な林分に誘導する	可	有り	平成4年に調査、平成3年に現地検討会	現地検討会や森林施業研修の場として活用
上川中部	大雪択伐施業指標林	2330れ	4.24	天然更新作業による漸伐林型への誘導	可	有り	森林総研が成長量調査を実施	存置
上川中部	カラマツ長伐期施業指標林	141ろ	3	森林を健全な状態に育成し、長期にわたって良好な森林の状態を循環させる森林施業を実施する。	可	無し	無し	今後の林相推移の把握が必要
上川中部	エゾマツ長伐期施業指標林	109に	3.1	森林を健全な状態に育成し、長期にわたって良好な森林の状態を循環させる森林施業を実施する。	可	無し	無し	エゾマツの植栽木125本34m3/haの状態で育天に林種変更の上申予定
上川中部	トウヒ長伐期施業指標林	301ろ、302ろ	82.34	森林を健全な状態に育成し、長期にわたって良好な森林の状態を循環させる森林施業を実施する。	可	無し	無し	老齢化で存置の必要無しと判断
上川中部	トマツ長伐期施業指標林	302ほ	3.9	森林を健全な状態に育成し、長期にわたって良好な森林の状態を循環させる森林施業を実施する。	可	無し	無し	活用予定が無く存置の必要無しと判断
上川中部	広葉樹二次林長伐期施業指標林	302ち	67.34	森林を健全な状態に育成し、長期にわたって良好な森林の状態を循環させる森林施業を実施する。	可	無し	無し	今後の林相推移の把握が必要
上川南部	金山湖畔複層林施業指標林	1083ほ、へ、ち	30.68	地形別に目標林型を定め、複層林型に誘導する。	可	有り	無し	12年に間伐の対象となり林況の把握が必要

署	施 業 指 標 林 名 称	林 小 班	面 積	設 定 目 的	現 況 ア ク セ ス	看板	活 用 状 況	今 後 の 取 り 扱 い の 方 向
網走西部	育成天然林施業指標林	348か	6.45	成育途上にある有用な中小径木、稚幼樹が多い天然生林でこれらの前生樹の保残を図るとともに稚幼樹の少ない箇所において地かきによる更新補助作業を行い、生産力の高い多段林への誘導を図る	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H27年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	育成天然林施業指標林	349お	9.75	伐採により孔状面への植え込みを行い、植え込み後の成長過程及び必要な保育方法を検討し、更新補助作業の技術的知見を得る	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H28年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	トマツ人工林複層林施業指標林	302ち	2.64	下木(トマツ)植え込みと天然稚幼樹を活用した複層林造成の施業体系及び管理技術の確立を図り、森林の健全化生産力の増大を図る	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H22年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	カラマツ人工林複層林施業指標林	302め	1.78	複層林造成の推進を図るため、帯状伐採箇所の下木(トマツ)植栽と天然稚幼樹を活用した施業体系及び管理技術の確立を図り、森林の健全化、生産力の増大を図る。	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H21年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	育成複層林施業指標林	316ぬ	4.7	架線支障木の伐採にともなう孔状面に植栽したトマツが上層木及び植栽僕との競合で優劣が出てきており、下層の植栽木の育成方法及び有用広葉樹の疎な箇所への植え込みを行い育成複層林へ誘導を	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H23年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	針広混交林育成複層林施業指標林	316る	7.3	トマツ人工林へ改植を行った箇所周辺でミズナラ、ホオノキの有用広葉樹が良好な生長をしている林分を針広混交林育成複層林へ誘	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H22年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	複層林施業指標林	356か	7	カラマツの人工林へトマツを改植植栽した林分がカラマツトマツの複層林型を呈していることから、カラマツトマツの複層林の施業方法の一考察とする。	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H22年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	トマツ人工林育成複層林施業指標林	302る	1	改植、植え込み等により現に複層林状態となり下木が被圧状態と鳴っている林分について、下木の育成方法を検討する。	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H27年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	広葉樹高品質材等生産林指標林	227ほ	10	山火事再生林における優良広葉樹を対象に、将来優良大径材を生産するための適切な施業方法の把握を行う	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H23年までデータ収集をして結論を出す予定

署	施 業 指 標 林 名 称	林 小 班	面 積	設 定 目 的	現 況 ア ク セ ス	看板	活 用 状 況	今 後 の 取 り 扱 い の 方 向
網走西部	カラマツ人工林間伐施業指標林	344ひ	3.93	カラマツ材の大径木としての利用に関する諸問題を解明するとともに林分の推移と施業方法を解明する。また針広混交林化しつつある人工林の取扱いの指針を得る。	可	設置 予定	署としてデータの収集を行っている。	H19年のデータ収集から分析し、結論を出す予定
網走西部	トドマツ人工林間伐施業指標林	314こ	1.51	人工林間伐施業における中大径材生産を目的とした林分の健全化、成長量の増大を図り、人工林間伐要領に基づく間伐施業方法の	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H21年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	アカエゾマツ人工林間伐施業指標林	325い	2.62	人工林間伐施業における中大径材生産を目的とした林分の健全化、成長量の増大を図り、人工林間伐要領に基づく間伐施業方法の	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H21年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	カラマツ人工林間伐施業指標林	302り	3.22	人工林間伐施業における中大径材生産を目的とした林分の健全化、成長量の増大を図り、人工林間伐要領に基づく間伐施業方法の	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H21年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	トドマツ人工林間伐施業指標林	302み	3.03	人工林間伐施業における中大径材生産を目的とした林分の健全化、成長量の増大を図り、人工林間伐要領に基づく間伐施業方法の	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H23年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	間伐施業指標林	302ひ	1.63	地拵えの効率化を図るために斜面に沿って一定の幅に枝条を集積する稚拵えを行った林分について、異なる植栽列となっている林分の初回間伐の選木方法の確立を図	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H23年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	育成天然林保育伐施業指標林	343と	19.85	水土保全林の天然林植え込み林分について下層植生の衰退している林分について保育伐の実施による成長調査を行う	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H24年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	アカエゾマツ人工林保育伐施業指標林	356や	5.2	水土保全林のアカエゾマツ人工林の下層植生の衰退している林分について保育伐の実施による成長調査を行う	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H23年までデータ収集をして結論を出す予定
網走西部	保残木施業指標林	356む	7.25	人工林における形質良好な中小木を保残し、天然木を積極的に育成する施業方法の検討・把握を行う	可	有り	署としてデータの収集を行っている。	H22年までデータ収集をして結論を出す予定
西紋別	海岸防災林施業指標林	1106ろね	1	海岸防災林の造成と施業体系の確立	可	有り	データ把握は行っていない。	今後検討
網走中部	育成複層林施業指標林	1114い	5.65	育成複層林造成後の上木間伐の指標	可	無し	毎木径級調査を実施	林相推移の把握が必要－存置
網走中部	育成天然林施業指標林	1118ほ	3.65	林分の健全化を図り、材積価値成長の増加を図る施業方法の把握	可	有り	毎木径級調査を実施	林相推移の把握が必要－存置

署	施 業 指 標 林 名 称	林 小 班	面 積	設 定 目 的	現 況 ア ク セ ス	看 板	活 用 状 況	今 後 の 取 り 扱 い の 方 向
網走中部	育成天然林施業指標林	1117ほ	2.75	林分の健全化を図り、材積価値成長の増加を図る施業方法の把握	不可(200m)	無し	毎木径級調査を実施	同様の施業内容の1118ほに集約
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1118へ	0.4	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握	可	無し	毎木径級調査を実施	林相推移の把握が必要ー存置
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1111な	0.2	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー択伐型)	可	無し	毎木径級調査を実施	同様の施業内容の1111よに集約
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1111つ	0.12	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー漸伐・帯状伐採型)	可	無し	毎木径級調査を実施	単木伐採を行う予定で不要。
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1111そ	0.2	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー漸伐・単木伐採型)	可	有り	毎木径級調査を実施	不要(廃止の方向で検討)
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1111た	1.02	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー択伐型)	可	有り	毎木径級調査を実施	同様の施業内容の1111よに集約
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1111れ	0.2	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー群疎開)	可	有り	毎木径級調査を実施	更新不良であり不要
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1111よ	1	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー択伐型)	不可(100m)	有り	毎木径級調査を実施	林相推移の把握が必要ー存置
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1110か	1	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握				解除済み
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1110ぬ	1	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握				解除済み
網走中部	針葉樹2次林施業指標林	1110じ	1	風害跡地に発生した2次林の林分構造に適応した施業方法把握(育成天然林ー択伐型)	可	有り	毎木径級調査を実施	同様の施業内容の1111よに集約
網走中部	育成天然林施業指標林	1111る	2.93	育成天然林施業(漸伐林誘導型ー帯状伐採)	可	有り	活用していない	2回目の間伐で単木伐採を行い施業が変わることから不要)
網走中部	育成天然林施業指標林	1111る	4.67	育成天然林施業(漸伐林誘導型ー単木伐採)	可	有り	活用していない	2回目の間伐で単木伐採を行い施業が変わることから不要)
網走中部	育成天然林施業指標林	1110わ	7.5	天然林施業(天下1類)	可	有り	毎木径級調査を実施	不要
網走南部	択伐施業指標林	1219へ	8.96	択伐施業(へり集)の理解と推進	可	有り	知床森林センターで5年に一度調査	
根釧西部	ベケレトマツ高齡人工林間伐	4077な	5.27	間伐体系の確立	可	有り	特になし	林相の推移の把握が必要だがデータ未整備
根釧西部	トマツ人工林	293い1、に、と1、か、よ	29.21	トマツ人工林施業方法の指標	可	無し	特になし	林相の推移の把握が必要だがデータ未整備
根釧西部	屈斜路	4187は、に、ほ、ほ1	90.09	風致保護を考慮した森林施業	可	有り	特になし	林相の推移の把握が必要だがデータ未整備

署	施 業 指 標 林 名 称	林 小 班	面 積	設 定 目 的	現 況 ア ク セ ス	看板	活 用 状 況	今 後 の 取 り 扱 い の 方 向
根釧東部	ダケカンバ二次林の間伐施業指標	97れ、れ1	11.69		可	有り	無し	不要(廃止の方向で検討)
十勝東部	天然林施業(針広混交林)施業指標	28い1	9.03	針広混交の天然林施業の推進	可	不明	無し	存置
	トドマツ樹下植栽複層林施業指標林	231れ	5.13	人工林を複層林に誘導	可	有り	無し	1996の設定で新しいため存置
十勝西部	ミズナラ2次林間伐施業指標林	1121こ、こ2	32.11	有用広葉樹施業の推進	可	有り	無し	存置
東大雪	自然環境に配慮した森林施業指標林	2175に	71.58	貴重な動植物の保護等自然保護に配慮した天然林施業	林道入り口で通行止め	不明	無し	施業調整の観点から活用の目的を果たすことが出来ないので不要(廃止の方向で検討)
後志	カンバ天然林施業指標林	183ろ	1	天然林施業の検討及び推進・普及	可	無し	無し	不要(廃止の方向で検討)
檜山	清水広葉樹施業指標林	372い	1.01	天然林施業の検証	可	有り	成長量調査を実施	施業結果を検証する指標林として存置
檜山	中の沢広葉樹施業指標林	2204へ～ぬ	5.61	天然林施業の検証	可(内部は無し)	有り	成長量調査を実施	施業結果を検証する指標林として存置
檜山	田倉の沢広葉樹二次林間伐施業指標林	519に	10.33	天然林施業の検証	可	有り	成長量調査を実施	施業結果を検証する指標林として存置
檜山	スギ複層林施業指標林	1481わ	5.15	複層林施業の検討及び資料収集	可	有り	15年に研究発表	存置
檜山	ミズナラ2次林間伐施業指標林	340に	9.67	広葉樹大径材生産技術の検討	可	有り	成長量調査を実施	今後当該施業技術の活用が見込まれないことから展示林に移行
渡島	カンバ天然林施業指標林	4120ち	0.92	天然林施業を推進するための施業技術の検討及び普及を図る	可	有り	活用はされていない	活用予定が無いので廃止
渡島	ウダイカンバ間伐施業指標林	1075い	9.66	広葉樹人工林の施業技術の検討及び普及を図る。	可	無し	活用はされていない。	広葉樹人工林が拡大している中存置して活用

水土保持モデル林の活用状況について

署等名	モデル林の名称	面積 (ha)	林道等 の状況	看板の 設置	活用の状況	署等における今後の取扱いの考え方	備 考
石 狩	水土保持モデル林	16.38	通行可	あり	なし	署内研修の場として活用したい。	
空 知	なし						
北空知(支)	なし						
胆振東部	治山施業地モデル林	29.87	通行可	あり	森林教室や林業体験等で活用	今後も積極的な活用にも努める。	
	水源地モデル林	4.63	通行可	あり	森林教室等で活用	入林者も多く PR の場として、歩道刈払、看板整備等を検討したい。	
日高北部	水土保持モデル林	113.74	通行不可能	あり	通行不能後活用なし	台風災害で林道が通行不能。林道復旧を図り、引き続きモデル林として活用したい。	
日高南部	なし						
留萌北部	水土保持モデル林	16.25	通行可	あり	なし	今後の検討会等のフィールドとして検討していく。	
留萌南部	水土保持モデル林	6.40	通行可	あり	なし	現地検討会等の活用について検討していく。	
上川北部	水土保持モデル林	10.40	通行可	あり	なし	今後イベント等で活用していく。	
宗 谷	海岸林造成モデル林	11.06	通行可	あり	植樹活動等で活用	今後も植樹活動の場等として活用していく。	
上川中部	水土保持モデル林	33.81	通行可	あり	なし	趣旨にあった林分となっておらず廃止したい。	廃止検討(20年度計画樹立時)
上川南部	水土保持モデル林	26.00	通行可	あり	近年なし	今後活用を検討していく。	
網走西部	水土保持モデル林	2.64	通行可	あり	森林見学等で活用	今後も活用していく。	
西紋別(支)	水土保持モデル林	2.00	通行可	古い	なし	看板の付け替え、今後の活用を検討したい。	

署等名	モデル林の名称	面積 (ha)	林道等 の状況	看板の 設置	活用の状況	署等における今後の取扱いの考え方	備 考
網走中部	水土保持モデル林	1.82	通行可	撤去	なし	台風被害を受けており廃止したい。	廃止検討（22年度樹立時）
網走南部	水土保持モデル林	39.36	通行可	あり	なし	趣旨にあった林分となっておらず廃止したい。	廃止検討（22年度樹立時）
根釧西部	水土保持モデル林	7.30	通行可	あり	法人の森関係者等にPR	今後も検討会等で活用していく。	
	水土保持モデル林	3.45	通行可	あり	JICA、大学等の視察に活用	今後も検討会等で活用していく。	
根釧東部	水土保持モデル林	6.31	通行可	あり	なし	今後の活用を検討したい。	
十勝東部	水土保持モデル林	0.98	通行可	あり	JICA 研修で活用	今後も施業説明の場として活用したい。	
十勝西部	なし						
東大雪(支)	水土保持モデル林	3.66	通行可	あり	なし	今後の活用を検討したい。	
後 志	鷲別ダム上流水源かん養モデル林	32.19	通行可	あり	なし	活用について検討したい。	
	有珠山昭和川国土保全モデル林	38.10	通行可	なし	なし	活用について検討したい。	
渡 島	大沼水源かん養モデル林	7.19	通行可	なし	なし	16年台風被害を受けており廃止したい。	廃止検討（21年度樹立時）
檜 山	姫川水源かん養モデル林	5.15	通行可	あり	検討会等で活用	引き続きモデル林として活用したい。	
	砂坂海岸国土保全モデル林	87.79	通行可	あり	グリーンスクール（遊々の森）で活用	今後も研修等に活用したい。	
	椴川国土保全モデル林	5.56	通行可	あり	研修会等で活用	現行どおりモデル林として活用したい。	
	稲穂国土保全モデル林	10.49	通行可	あり	最近活用なし	国民にPRするフィールドとして活用したい。	

(参考)

事務連絡
平成20年1月22日

各森林管理(支)署長殿

職員厚生課長
計画課長
指導普及課長

施業指標林及び水土保持モデル林の現況把握について

施業指標林等については林野庁から一層効率的な維持管理と積極的な活用を求められているところであります。今回施業指標林と併せて水土保持モデル林の今後の取扱いの検討材料として別紙のとおり現在の活用状況等について調査することとして考えておりますので、ご多忙中恐縮ですが、別紙記入の上2月22日(金)までにFAXまたはガルーンで計画課及び指導普及課担当あてご報告いただきますようお願いいたします。

(担当:指導普及課企画官 富永 内線342)